

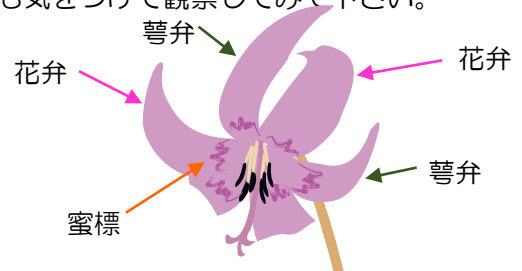


毎年心待ちにしているこの季節。花々が咲き出し木々が芽吹くのを見ているとなんとも幸せな気持ちになります。

青葉の森緑地では、平成25年から林床植物（地面に近い場所に花を咲かせる小さな植物たち）の生育環境改善を目指してササや灌木の間伐を実施しています。林床植物のなかでも一際目を引き、春の訪れを告げるカタクリ（ユリ科）は、子孫を残すために多くの戦略を巡らせています。そのひとつ蜜標（花びら内側のW模様）は、虫たちに蜜のありかを知らせる「案内標識」になっているらしく、効率よく昆虫を招き寄せ花粉を運んでもらっているそうです。

ところでカタクリの花びらは何枚あるかご存知でしたか？ 花びらは専門的には「花弁（かべん）」と呼びます。その外側には「萼片（がくへん）」があり、普通これらは明確に区別できますが、カタクリは花弁と萼片が同じ形・色をしていて区別できませんので、すべてをまとめて「花被片（かひへん）」と呼んでいます。カタクリは花被片が6枚ありますが、花弁3枚、萼片3枚が交互に組み合わせられてひとつの花を形成し

ています。また、雄しべは6本、雌しべの先端は3つに分かれているのも特徴です。カタクリを含むユリ科植物の花は3の倍数で形成されていますので、ヤマユリなども気をつけて観察してみてください。



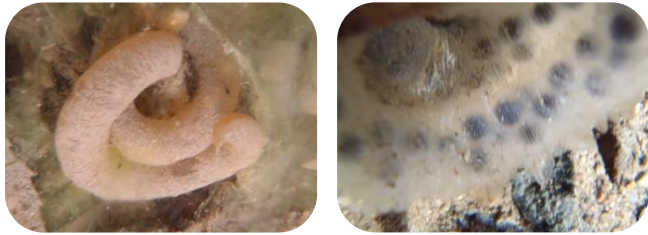
カタクリは陽が昇り気温が上昇して虫たちの活動が始まると花が開き、夕方や曇りの日など気温の上がない時は花を閉じています。これは、大切な花粉や蜜を低温から守り無駄にしないためだと考えられていますが、この説はあくまでも人間が考えたもの。本当のところはカタクリに聞いてみないとわかりません。

青葉の森緑地では、どこでもカタクリが生育していますが、管理センターからすぐの「カタクリのみち」沿いに特に多く生育しており、たくさんの花を咲かせています。ぜひ、自分の目でご覧になってカタクリの気持ちを感じ取って下さい。（千）

サンショウウオ 今年も 春 が来た！

「春といえば？」…春の息吹を感じるものにはいろいろありますが、皆さんは何から春を連想するでしょうか。

青葉の森で春の訪れを感じるもののひとつ、サンショウウオの卵のう。今年も産卵しに来てくれて2月17日に確認しました。(去年は3月7日でした)



仙台の街中からすぐ近くで交通の便もいい所にサンショウウオの生息地があることは貴重なことです。「仙台で行われた学会に参加したから」と、関西から大学の研究者がトウホクサンショウウオの調査に来られたほどです。水辺に潜んでいた2匹の成体を捕まえて粘液を採取したり、水を調べたりしていました。

調査中にいろいろ話を聞くことができました。

- ・メスは年に一回産卵する(一度に2房の卵のうを産む)卵のうがいくつあるかでメスの数がわかる
 - ・メスとオスの割合は半々と考えられるので、オスも同じくらい生息している
 - ・オスとメスとは体の形が違う(特に頭の形)産卵の時期には体型が変化するので、オスとメスの区別は外見から比較的簡単に見分けられるオスはメスに抱きついて産卵を迎えるため、オスの腕は筋肉が発達している(マッチョに変身!ごつい体つきになる)
 - ・メスは夜に森から卵を産みにやって来るオスは産卵場にメスが来るのを待っていて、メスを巡りオス同士の恋のバトルが繰り広げられるメスは卵を産んだら森に帰っていくオスは次のバトルに向け待機する
 - ・しっぽが切れているオスがよくいるが、オス同士のバトルのときに噛まれて切られている
- …などを教えてもらいました。知らないところでこんなことが起きているなんて驚きです。

サンショウウオは卵から孵化して無事に成長すると秋頃に陸へ上がります。一匹のメスが20~100個の卵を産むらしく、卵のうがたくさんあればものすごい数になりますが、それまでの生存率は2%以下と推定されるそうです。青葉の森で観察していた場所では0%でした。今年は何匹かが陸に上がるまで無事に成長して欲しいです。



手が生えた段階の幼生



もうすぐ陸に上がれる?

たとえ無事陸に上がったとしてもいろんな動物に食べられてしまう危険があります。5歳以上になると繁殖活動を行えるまでに成長するようです。調査に協力してくれた(?)2匹のサンショウウオ君は、5歳以上だったのですね。サンショウウオはどれも同じ姿だと思ったら…もう1匹みつけたので3匹を見比べてみたらまさに三者三様!大きさや体の色に違いがあり、模様などの特徴もあって個性があることを知りました。



しっぽに黄色いすじ



体に黄色い星がある

この模様をよく覚えていよう!様々な危険なことを乗り越えて、無事生きのびてね。来年また再会できたら嬉しいなあ。(り)





サクラの木の話

◆サクラ切るバカ ウメ切らぬバカ

樹木を育てるための心得として知られている言葉です。サクラの枝を切ると切り口から腐れ、枝や樹木全体が枯れてしまいます。一方ウメは切らないで放っておくと枝が密集するため切る必要があります。またウメの花芽は短い枝に多く付くので、長く伸びた徒長枝とろようし注1にはあまり付かず切る必要があります。この言葉は「素人が安易にサクラを剪定してはいけない」また「ウメは剪定が必要」という意味で言われています。決して切ってはいけない事ではありません。逆に切らないと見ごたえのある元気な桜を見ることができません。注1>樹木の幹や太い枝から上方に向かって真っすぐに太く伸びる枝

◆弘前城公園のサクラはなぜ人気？

サクラの花芽は一般に3～4個と言われていますが弘前城のサクラは5～7個。ほぼ2倍なので弘前城のサクラは見た目にこんもりとボリュームがあり濃厚な花が見られることが人気の理由のひとつです。そのわけは「弘前方式」と呼ばれる剪定にあります。青森と言えばリンゴ。そのリンゴ農家の剪定法を応用した方式で枝をバッサリと切ったところ樹勢を取り戻し、より美しく見事によみがえった事からこの方式で管理されています。また、根の更新も同様に大事にしています。一般のソメイヨシノの寿命は60年と言われていますが、弘前城の場合はこの剪定方法により



青葉の森 三居沢駐車場のソメイヨシノのつぼみ (3月27日撮影)

100年を越える樹も少なくありません。また切り口に「墨汁」を塗ることで病気を防いでいる事もリンゴ農家の技が生かされており、見事なサクラを維持できているのです。

◆花が咲き 葉が開く

ソメイヨシノは先に花が咲き、後から葉が開きます。サクラの種類によって花と葉がほぼ同時に開くものもありますが、一般に植物は葉が開いてからその葉の中の葉緑体によって光合成により栄養(糖)を蓄えます。そしてその栄養をエネルギーとして花を咲かせます。ソメイヨシノは、いつ花を咲かせるエネルギーを蓄えるのでしょうか？

それには「休眠物質」が関係しています。休眠物質とはサクラの芽吹きを遅らせる働きをするものです。花が散り葉桜となるころ緑の葉っぱが太陽光を受け盛んに休眠物質を作ります。葉が落ちたあとは休眠物質がつぼみの中にぎっしり詰まっています...だから夏、秋には開花しません。花芽は一定期間低温にさらされることで眠りからさめ開花の準備をします。このことを「休眠打破」と言います。冬の寒さがつぼみの中の休眠物質を減らす働きをします。そしてそのあと春先の気温との関係により開花していきます。



つぼみの中をのぞいてみました 開花は近い

「冬の寒さが開花時期に影響する」とても不思議な仕組みではないでしょうか。四季のある日本の気候で進化したサクラ。そんな開花のしほみを思いながら今年のサクラを楽しみたいと思います。(あ)

レンジャー交代のお知らせ

レンジャーとして一緒に働いてきた佐々木智樹が3月を持ちまして退職いたしました。4月からは、太白山自然観察の森から河合 遥レンジャーが加わります。よろしくお願いします。

青葉の森を卒業します

4年間お世話になりました。たくさんの方々と森での活動を共にさせていただき、とても充実した時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。これからも青葉の森緑地をよろしくお願いします！



はじめまして！

こんにちは。太白山自然観察の森から異動してきた、河合 遥(かわい はるか)です。これから青葉の森緑地のレンジャーとして、皆様とたくさんの発見を共有できることを楽しみにしています。一生懸命頑張りますので、どうぞよろしくお願いします。





森からのお知らせ



イベント情報

イベントの詳細や申込み日・方法などは変更になる場合がございます。必ず毎月発行の「市政だより」をご覧ください。お気軽にお問い合わせください。

春の外あそび森あそび

- ・4月17日(日) 午前10時～正午
- ・対象＝小学生と保護者15人〔先着〕
- ・持物＝飲み物・雨具・動きやすい服装と靴
- ・申込み＝4月6日(水) 午前9時から電話受付

大人の森あるき「春の森に“隠れ桜”をたずねて」

- ・4月24日(日) 午前10時～午後2時
- ・対象＝成人20人〔先着〕
- ・持物＝昼食・飲み物・雨具・歩きやすい服装と靴
- ・申込み＝4月6日(水) 午前9時から電話受付

親と子がそれぞれ楽しむ新緑の森 in 青葉の森

- ・5月4日(水・祝) 午前10時～午後3時
- ・対象＝小学生と保護者30人〔抽選〕
- ・内容＝大人と子どもが別グループに分かれて、自然観察や森あそびをします。初夏の青葉の森をたっぷり楽しみませんか。
- ・持物＝昼食・飲み物・雨具・歩きやすい服装と靴
- ・申込み＝往復葉書またはEメールで参加者全員の名前、子供は学年、〒住所、電話番号、葉書の場合は返信先を記入して4月15日〔必着〕
Eメール: aobanomori_moushikomi@sendai-park.or.jp

みどりであそぶ森のおさんぽ

- ・5月22日(日) 午前10時～正午
- ・対象＝4歳以上の未就学児と保護者15人〔先着〕
- ・内容＝葉っぱであそんだりさんぽしたりして森の自然を楽しみます。
- ・持物＝飲み物・雨具・虫よけ・動きやすい服装と靴
- ・申込み＝5月6日(金) 午前9時から電話受付



大人の森あるき

- ・5月29日(日) 午前10時～正午
- ・対象＝成人15人〔先着〕
- ・持物＝飲み物・雨具・虫よけ薬・歩きやすい服装と靴
- ・申込み＝5月6日(金) 午前9時から電話受付

風薫る「青葉の森」は美術館

- ・4月29日(金・祝)～5月15日(日)
午前9時～午後4時半

散策路に展示された美術家のアート作品を鑑賞しながら、のんびりと森の空気を楽しんでみませんか。入場無料です。



ゆっくり初夏の森をご散歩ください



来園する市民のみなさんが安心して散歩できるように歩道や階段の整備には気をつけておりますが、風が強く吹く日は枝が落ちてきたりします。どうぞ足元や頭上にも気をつけてご利用下さい。



今号から誌面を一新しました。これからはこのスタイルで発行していく予定です。ぜひ、ご感想をお寄せ下さい。

情報誌 季刊「青葉の森から」第40号 平成28年4月1日発行

発行：(公財)仙台市公園緑地協会

企画編集：青葉の森管理センター

青葉の森管理センター

開館時間：午前9時～午後4時30分 月曜年末年始休館

〒980-0845 青葉区荒巻字青葉260

TEL:022-263-2101 FAX:022-263-2102

地下鉄東西線「青葉山駅」から徒歩15分

<http://www.sendai-park.or.jp/web/info/aobanomori/index.html>

